令和５年度　学校評価報告書

4段階評価			
	A	ほぼできた	3.2　以上
	B	概ねできた	2.6～3.2未満
	C	やや不十分	2.0～2.6未満
	D	不　十　分	2.0　未満

島根県立江津工業高等学校

※アンケート質問項目の評点化：４:強くそう思う　３:そう思う　２:あまりそう思わない　１:全くそう思わない　※少数第2位を四捨五入して表示。　※(　　)令和4年度

グランドデザイン				評価計画			自己評価					学校関係者評価		改善策
学校像			生徒像	重点目標	評価項目	達成のための方策	生徒	保護者	教職員	評価	結果（抜粋）と課題	コメント（抜粋）	評価	
地域産業を担うテクノロジストの育成	・生徒自身が自らの成長を実感できる学校	・地域産業を担う人材を育成する学校	・自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った人材の育成　・５S教育を理解した人材の育成　・ＫＹ能力をもつ人材の育成	人権感覚の涵養	他者との協働活動を育む指導	・企業や大学等の進路情報の収集を生徒の協働作業で実施。 ・実習や課題研究における協働作業の実施。 ・「地域の人から学ぼう」の活動に体験や対話的要素を加味して実施。 ・通学路クリーンアップ活動を実施。	3.2 (3.1)	3.2 (3.1)	3.1 (3.2)	B (B)	【結果】 ・上級生による新入生オリエンテーションを実施し、コミュニケーション能力を高めた。 ・「萩・石見空港開港３０周年記念コースター」制作に全学年で取り組んだ。 ・対話や体験に重点をおいた「地域の人から学ぼう」を８回実施した。 【課題】 ・生徒数が少ない学級における対話的学習時の多様性の確保。	・生徒の学校以外の視野が広がっている。準備が大変であるが、継続実施をお願いしたい。 ・地域、企業など色々なところに出向かれ、多く学びがあったことが評価される。 ・「地域の人から学ぼう」の実施を通じ、他者と協働し活動する力を育んでいる。	A (A)	・地域連携活動を持続させるために、組織的な運用に取り組む。
					人権意識を育む指導	・毎学期における人権教育ホームルーム活動の実施と情報発信。 ・生徒、教職員、保護者対象の人権教育講演会の実施。 ・いじめアンケートの実施。 ・道徳教育の視点をふまえた授業の定期的な実施。	3.1 (3.0)	3.0 (2.9)	2.9 (2.9)	B (B)	【結果】 ・セクシュアルハラスメントを防ぐためのアンケートを開設し、防止体制を構築した。 ・人権教育ホームルーム活動を毎学期実施するとともに、人権だよりを発行した。 【課題】 ・教科の授業における人権教育や道徳教育の充実。	・いじめに対する指導方法は、課題があると感じる。 ・今は色々なハラスメントがあるので、学校で教職員、生徒、保護者にハラスメントの情報共有をもっとできると良い。 ・ホームルームの人数が少ないため、一人一人の言動が大きく影響している。	A (A)	・人権意識を高める教育活動の質量を増やし、より充実させる。
				学習力の向上	探究的な学びを育む指導	・生徒の探究活動を伴走するためのファシリテーション能力を高める教職員研修の実施。 ・教科等横断的な視点のミニ探究フェスタ、校内探究フェスタの実施。	3.2 (3.1)	3.3 (3.2)	3.1 (3.0)	A (B)	【結果】 ・課題研究で萩・石見空港、しまね海洋館、ＪＲ江津駅、第一稀元素化学工業（株）等、約１０件の地域連携に取り組み、真正性の高い探究活動を実施した。 ・島根県立大学の学生とのワークショップにおいて、２年生が探究のテーマを設定し、継続的な探究学習に取り組んだ。 ・全学年において単元配列表を作成し、各科目の関連を示した。 【課題】 ・令和６年から実施する市内企業２４社と連携した協働探究学習の体制の構築。	・地域との取り組み、大学生とのワークショップなど探究活動の魅力が伝わった。また、活動している生徒の姿に感動した。 ・課題研究を行う企業、地域は多く、様々な探究活動を行える環境づくりが進んでいると実感する。来年度は企業の参加意欲が高く、卒業生も多いこと、DXを進展させることから、様々な学び、価値の創造ができることを期待している。	A (A)	・地域連携活動や２年生の協働探究学習の実施においては、その目的を全校で共有して実施する。
					主体的な学びを育む指導	・指導と評価の一体化のため、実習における各ショップのルーブリック作成の実施。 ・単元評価において単元評価シートを活用するとともに、ふりかえりシートに関する活動を実施。	3.0 (2.9)	2.9 (2.9)	2.6 (2.6)	B (B)	【結果】 ・定期考査を廃止し、単元テストとふりかえりシートの活用により、生徒によるふりかえりを確実に実施し、指導と評価の一体化を促進した。 ・生徒自身が学びに向かう姿勢を客観的に認識できるように、全ての科目において、生徒による授業評価を毎学期末に実施した。 ・資格試験補習を通して、学習意欲を高めた。 【課題】 ・家庭学習の充実＜継続＞。	・ふりかえりシートの活用により、生徒自身が学びに向き合う目標と姿勢を指導と評価に役立てている。 ・資格取得の取り組みには生徒のやる気、達成感の促進につながっていたと感じた。 ・提出物を提出しておけば良いなど、淡々とこなすだけになっており、学習活動にメリハリがなくなったと感じる。 ・家庭学習がどの程度できているのか、必要な基礎的学習がなされているのかを検証する必要がある。	A (B)	・教科における学習活動が生徒の主体的な活動になるように、宿題等を活用して学習活動を充実する。
				社会人基礎力の向上	挨拶や身だしなみ、掃除などの指導	・身だしなみ指導の結果を生徒と教職員で共有。 ・生徒アンケート結果を活用し、頭髪に関する校則の見直しを検討。 ・ＰＴＡ総会時に身だしなみに関するパネルディスカッションを実施。	3.2 (3.2)	3.1 (3.2)	2.8 (2.6)	B (B)	【結果】 ・PTA総会にあわせて身だしなみに関するパネルディスカッションを実施し、地域企業や生徒の考えを共有した。 ・正門で毎朝の登校指導を実施し、挨拶や身だしなみについて声かけを実施した。 ・生徒会が中心になり、定期的に通学路クリーンアップ活動を実施した。 【課題】 ・身だしなみに関する校則の検討＜継続＞。	・身だしなみは、良くなっている。 ・社会人の基本となる挨拶のさらなる定着が必要である。学生としての身だしなみを全校生徒参加の場で共通認識として指導を行っている。 ・挨拶について、人を見ていると思う。挨拶は基本なので、全員が気持ちの良い挨拶ができるようになれば、学校の印象も変わってくると思う。 ・身だしなみに関しては、生徒と教職員の話し合いにおいて、互いが納得のいくようにして欲しい。	A (A)	・生徒、教職員全体に対して、挨拶や身だしなみに関する指導の基準を共有して取り組む。
		・積極的に社会に貢献する人材を育成する学校			時間の管理と計画的な行動を育む指導	・寮生に自らの予定を考えさせ、次週の欠食表の作成を実施。	3.1 (2.9)	3.0 (2.9)	2.8 (2.9)	B (B)	【結果】 ・インクルーシブ教育推進員と協力して進路活動の支援を実施した。 ・望ましい生活習慣の確立を目指し、がん教育講演会等を実施した。 ・全校で朝礼開始５分前登校を徹底し、朝学習を実施した。 【課題】 ・保護者と連携した生徒の育成・支援＜継続＞。	・時間管理（約束）の重要性を継続指導している。５分前行動の更なる定着に向け、指導を行っている。 ・時間の管理は社会ではあたりまえの事として、保護者も巻き込んでの取り組みが必要である。 ・教職員も地域に出て（企業）を見るといろいろな発見があると思う。	A (B)	・授業の準備や課題の提出期限を生徒が主体的に守ることができる環境づくりに保護者と連携して取り組む。
	・地域社会や保護者の期待に応えうる学校				危険予知能力と技術力・判断力が身につく指導	・工具や機械を扱う授業において、危険予知能力が身につく指導を実施。 ・全校で自転車安全教室を実施。 ・学校安全の日を設定。 ・生徒による校内安全点検の実施。	3.3 (3.2)	3 .1 (3.0)	3.1 (2.9)	A (B)	【結果】 ・５月１６日を学校安全の日に設定し、生徒による校内安全点検を毎学期実施した。 ・江津警察署から講師を派遣していただき、自転車の安全教室を実施した。 【課題】 ・実習における作業態度やマナーの向上。	・作業中に発生する事故等に対し、また、日々の生活の中で発生するリスク（危険予知の実施）について、継続指導を行っている。 ・自分の身を自分で守る習慣が身に付くまで継続実施をして欲しい。	A (A)	・生徒による安全点検や実習作業のリスク評価の実施、外部講師による講話等を充実する。
				キャリア教育の充実	生徒の進路意識を高める指導	・進路の手引きを活用し、３年間の見通しを持つ取り組みの実施。 ・キャリア・パスポートを活用し、自分の強みや適性を探る取り組みを実施。	3.2 (3.2)	3.1 (3.1)	3.2 (3.2)	A (A)	【結果】 ・広島工業大学の見学（１年生）、広島工業大学のオンライン講義受講（２・３年生）、島根大学のオープンキャンパス参加（希望する１・２年生）、島根県立大学の学生の講話とワークショップ（２年生）を実施した。 ・県内企業見学や地域企業等によるワールドカフェを実施した。 【課題】 ・学年に応じた生徒自身のキャリア形成に関する意識の深化＜継続＞。	・キャリア・パスポートの活用により、生徒が自分を見つめるツールとなり、進路選択に生かされている。 ・学校見学やワークショップは自分の進路を考えるきっかけの一つになるので、企業見学とあわせて、今後も続けて欲しい。 ・大学や企業見学など、目で見てまた体験できる機会がもっと増えるように期待する。 ・大学等の進学も今後は積極的に指導されることを期待している。	A (A)	・しまねの高校生学力育成事業を活用し、数学や英語の補習および各種見学を充実させ、生徒の進路意識を高める。
					進路実現に向けた指導	・就職と進学の進路ガイダンスを各学年で実施。 ・就職活動支援のために、求人票管理システム活用を実施。 ・ICTを活用して、進学に関する最新情報提供を実施。 ・アシスタント制度の導入により、数学の授業支援や英検の補習を実施。	3.3 (3.2)	3.2 (3.2)	3.3 (3.2)	A (A)	【結果】 ・アシスタント講師を雇用し、数学の演習や英検対策補習を実施した。 ・様々な資格検定試験において受験支援を実施した。 【課題】 ・資格検定試験や大学受験における学習指導への組織的な取り組み＜継続＞。	・資格取得に向けた学習の指導継続と基礎学力の向上に向けた学習支援がなされている。 ・就職希望者への指導対応はできている。 ・進路に関する情報がきちんと伝わっているのかを確認する必要がある。	A (A)	・進学や資格取得に関する補習を組織的かつ計画的に推進する。
				学校の活性化	教育活動や部活動、地域とのかかわりの発信 ＜地域や異校種（幼小中特）との協働活動の推進＞	・生徒による中学校等への情報発信を実施。 ・ごうこうニュースの配布先の増加を実施。 ・InstagramとFacebookを活用し、多様な情報発信を実施。 ・課題研究、出前授業等を通じて地域の方々との協働活動を実施。 ・「コウギョウを見に行こう」、「サマースクールとうもろこし」の実施。 ・島の星山登山道整備活動の実施。	3.1 (3.1)	3.3 (3.1)	3.5 (3.3)	A (B)	【結果】 ・全ての中学校の進路説明会において、生徒が学校紹介を実施した。 ・InstagramとFacebookを開設し、ホームページとともに250回以上アップした。 ・島根職業能力開発短期大学校の学生と連携し、島の星山登山道整備活動を実施した。 ・はなまる日本語学校と連携し、校内レガッタや球技大会を実施した。 ・「コウギョウを見に行こう」を６回実施した。 ・益田養護学校や江津青年会議所等と連携して課題研究を実施した。 ・いわみん2023秋、アクアスハロウィン等のイベントに約１０回参加した。 【課題】 ・地域連携活動に取り組む体制の構築＜継続＞。	・ごうこうニュースを楽しみにされている地域の方が沢山おられると聞き、回数を増やしてみても良いのではと感じた。また、SNSでの発信は学校の様子が分かるのでとても良いと感じた。 ・メディア掲載、SNSでの情報発信等、学校の様子を知ってもらう活動はうまくいっていると思う。志望者数の増加に結びつけられるとなお良いと思うので、小学生の体験受け入れなど、外部の方々が学校に参加する機会が増えることを期待する。 ・地域とのかかわりが多くなって生徒の自主性も育つのではないか。部活動は小さな規模で良く頑張っている。	A (A)	・「コウギョウを見に行こう」や「オープンスクール」等の活動についての組織的な取り組みと、保育園、小学校、中学校への積極的な紹介を実施する。
					生徒の安全を考えた環境整備の充実	・安全点検後の積極的な修繕の実施。	2.9 (2.9)	3.1 (3.0)	3.0 (2.9)	B (B)	【結果】 ・生徒による安全点検により指摘を受けた箇所の修繕を実施した。 ・老朽化した設備の更新と修繕を行った。 【課題】 ・生徒の安全点検により指摘された箇所の修繕に向けた予算の確保。	・生徒に配慮した環境整備と校内の美化に力点を置いた学校運営がなされている。 ・危険度に優先順位を付けて環境整備をお願いしたい。 ・女子生徒が安心して居られる環境、トイレ、更衣室、ミーティングルームの整備が必要である。	A (A)	・優先順位をつけて、計画的に環境整備を行う。